

**製造業安全対策官民協議会**  
**第4回サブワーキンググループ（向殿SWG）検討会**  
**議事要旨**

平成30年2月7日（水）13：30～15：30  
安全衛生総合会館 8階大教室

1 出席者

出席者名簿（資料1）のとおり

2 議事

(1) 議長より挨拶

神戸大会において第3回まで皆様と検討した結果を無事報告できた。この場を借りて改めて御礼申し上げます。次の横浜大会に向けては、実際に災害防止に役立つ情報を提供、還元したいので、引き続き宜しく願い申し上げます。

(2) RA標準手法の検討項目アンケート結果及び今後の進め方について

中災防より資料2に基づき、アンケート結果の説明及び今後の日程等の提案を行なった。各団体から提出されたアンケート回答の補足説明は下記のとおり。

- ・ アンケートにも記載しているが、RAを実施して改善が必要なものが判明すると、それに対する対策を行なわなければならない。リスクを抽出するのも対策を考えるのも自分（現場）であり、自分の首を絞めることになるためリスクを抽出してこないのが課題である。（製紙）
- ・ 実施の管理が課題であり、「2. RA実施の管理」を選択した。（鉄鋼）
- ・ 事業場に行った初回のアンケートの化学業界のみを分析し、「4. リスクの見積り」と「6. 残留リスク対策等」を選択した。（化学）
- ・ 管理面の課題を感じており、「1. RAの実施時期」「2. RA実施の管理」を選択した。（自動車）
- ・ 皆と同様の意見だが、リスクの見積り方次第で結果が大きく変わるため、他の業界の方法に興味がある。（アルミ）
- ・ 見積りは業種によって大きな差が出るほか、保全を請け負っている関係請負人が危険な作業を行なっている場合が多く、何か支援ができないかと考え、「4. リスクの見積り」と「7. 関係請負人の支援」を選択した。（セメント）
- ・ リスクアセスメントは、最初は効果があったが、年が経つにつれて形骸化してきている。現場サイドはどうしたらいいのか不安になっている。（鋳業）
- ・ 担当者ごとにバラツキがあり、規模や役職、立場によって結果が大きく違う。そのためには見積り方法等を統一する教育が必要であると考えている。（伸銅）
- ・ 厚労省指針でもマニュアル等についての説明は詳しく記載しているが、残留リスク対策に関するものはあまりない。本SWGで検討し、残留リスク対策に関する方向性を示すことができれば事業場に対してよい情報になると考える。（厚労省）

なお、横浜大会までに検討する項目は、アンケート結果及び上記意見をもとに「4. リスクの見積り」「6. 残留リスク対策等」の2つを選定した。なお、小項目は分離せず、全体的に検討していくこととする。

(3) RA標準手法の検討の方法について（リスクアセスメント）

中災防より、資料3に基づき、メンバー団体より取組事例等の提供を行なっていただきたい旨を説明した。意見、質問等は下記のとおり。

- ・ 提供する取組事例はどのようなものと考えているのか。RAの実施結果か、それともRAの規程

やマニュアルなどか。(鉄鋼)

⇒ 今回の検討項目だけを切り取るのが手間であれば、既存のものをそのまま提供していただいてよいと考える。(経産省)

- ・ 当業界では、見積りの仕方などの基準を作っていない。業界として RA の基準を作っている団体はあるか。(アルミ)
  - ⇒ 化学プラントでは危険物等の基準はあるが、企業でも上工程から下工程までいろいろあり、統一の基準は作っていなかったように思う。(化学)
- ・ どのような資料を提供すればよいか。新設設備の RA は出しやすいと思う。見積りの方法は大きく変わらないと思うが、新設以外にも、手順や人が変わったときも実施することが指針で定められており、多数の種類があると思う。(鉄鋼)
  - ⇒ どういう観点で見積もっているのかが分かる資料を提供していただけるとありがたい。(中災防)
  - ⇒ 意図的な誤使用は見積りの際に考慮に入れていない。情報があれば聞きたい。(セメント)
  - ⇒ 「4. ②リスクの見積り方法」の情報は必ず提供していただきたい。「4. ③意図的な誤使用を考慮する方法」「4. ④受け入れ可能なリスク基準の設定方法」については、可能な限り提供していただき、勉強させていただきたい。(厚労省)
  - ⇒ 4については、見積り方法の基準やバラツキを合わせる方法を主に提供していただきたい。(中災防)
- ・ 資料提供の依頼文を送付すると思うが、その際に取りまとめのイメージを書いていただけると提供しやすいし、取りまとめやすいと思う。(アルミ)
  - ⇒ 「〇〇を検討するので、〇〇を提供いただきたい」などとイメージは記載することとするが、限定せずに幅広く提供していただければありがたい。(中災防)
- ・ 「6. 残留リスク対策等」は事例があまり無いと思うが、価値があるのでご協力をお願いします。(厚労省)

#### (4) 設備点検・補修・更新基準の共通化について

三菱ケミカルリサーチ㈱より、資料4に基づき説明した。なお、資料4については、厚労省委託事業の途中経過報告のため、非公開資料に変更することとなった。コメント、意見等は下記のとおり。

- ・ 本 SWG の多くのメンバーが、こちらの委員会でもお世話になった。御礼申し上げる。来年度も同規模の予算を要求している。来年度は、生産設備の一部について調査するか、今回の結果からガイドラインをまとめるか未定であるが、来年度もよろしく願います。(厚労省)
- ・ 老朽化の基準を「30年」を基準としているが、その意味について伺いたい。(経産省)
  - ⇒ 色々な調査で30年が目安になっており、道路や橋、原発なども同様である。それらに合わせ30年としている。また、設備等を設計する際には、まず耐用年数を決めてから設計に取り掛かるが、一般的に30~40年に設定している。(三菱 CR)

なお、資料4は非公開とするが、結果をまとめたリーフレットが完成後、次回の SWG 資料としてホームページに掲載することとする。

#### (5) OHSMS の ISO 規格化に伴う普及促進に関するアンケート

中災防より、資料5に基づき説明した。意見、コメント等は下記のとおり。

- ・ 災害を減らすために導入したのに、MS 導入で良かった点として「災害が減少した」が33%しかないのは個人的には非常に低いのではないかと感じる。システム自体に問題があるのか、やり方に問題があるのか。(鉱業)
  - ⇒ 質問が良かった点を複数選択する形式なので、MS 導入で33%しか災害が減っていないというわけではない。(厚労省)
  - ⇒ トップが導入したのだと思うが、現場作業員がそれを意識しているのか、実際に中身を見

てみないと分からない。(製紙)

(6) その他

その他の意見等は下記のとおり。

- ・ 官民協議会の成果の見える化を進めてほしい。多くの事業場からアンケートの協力をいただいたが、その成果を事業場に報告できていない。事業場へのフィードバックが必要であると考え  
る。(厚労省)  
⇒ 神戸大会の特別セッションで報告した。(中災防)  
⇒ リーフレットは印刷すると費用がかかるので、結果をまとめた PDF をホームページに公表  
するのが良いと思う。(厚労省)
- ・ 企業から来てもらっている方々は、経営層に対して官民協議会に協力しており、どういう活動  
を行なっているかという説明をしなければならない。調査結果をまとめたリーフレットなど、  
経営層に説明する資料があればよい。(アルミ)  
⇒ 検討する。

(次回 SWG 会合 (第 5 回検討会) : 平成 30 年 6 月 5 日 (火) PM)